



Q 野球場の設置について

おおそねひであき
大曾根英明 議員

A 農大跡地内の調整池の底面を有効活用する

問 長年の懸案である野球場の設置について、運動公園第二期工事に位置づけられているが、未だに具体案は出ていない。今後の予定は。

答 運動公園第二期の整備は、野球場をはじめとする運動施設の充実等を目的として、平成27年10月に都市計画区域変更を行った。一方、運動公園に隣接し、埼玉県が土地区画整理事業の準備を進めている農業大学校跡地には、多目的に活用できる公園の配置が予定されている。そのため、今後の運動公園第二期整備計画は、農大跡地の公園で実現される運動施設の機能を考慮した上で、再検討していく必要があると考えている。

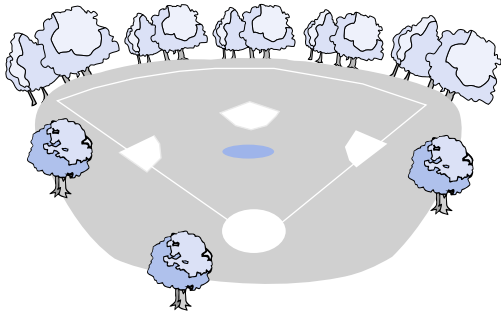
問 農大跡地との関連は。

答 農大跡地内では、調整池の底

面を有効活用する形で、2か所の公園が整備されることとなった。そこで市は、公園の片方を主に野球グラウンドとして活用する構想を県に投げかけてきた。

今後は、公園管理者として、県と連携して設計を進めていくと同時に、公園整備における県と市の役割分担について、県と協議していく。

◎その他の質問 道路行政について



Q がん教育の充実について

まつお
松尾 孝彦 議員



A 指導力の向上に努める

問 新学習指導要領に対応した取組について。

答 埼玉県教育委員会主催のがん教育指導者研修会等への参加を促すなどして教職員の指導力向上を図り、児童・生徒が主体的に健康な生活を送ろうとする態度の育成に努めていく。

問 今後の課題とスケジュールについて。

答 クラスにがんの当事者や家族をがんで亡くした児童・生徒等がいる場合の精神的負担を考慮する必要がある。また、最新の情報と正しい理解のための外部講師の確保が課題である。



中学校の授業

今年度、南中学校では、県教育委員会の「がんの教育総合支援事業」における「がん教育授業研究会」の委嘱を受け、外部講師を活用した効果的な指導法を研究し、授業モデルを発表することになっている。市教育委員会としては、この取組に市内各学校の教員が参加するよう働きかけ、指導力の向上に努める。また、文部科学省の「がん教育推進のための教材」と「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」を各学校に周知し、地域や学校の実情に応じた取組をするよう指導していく。

◎その他の質問 地域間交流の促進について